



身近なまちの話題について情報をお寄せください。
 広報紙に掲載された写真は差し上げますので、お気軽に問い合わせください。



町の木を知り、木の魅力に触れる ちいきの木ふれあいプロジェクト

7月10日、添田小学校で福岡県森林づくり活動公募事業として「ちいきの木ふれあいプロジェクト」が開催されました。福岡県木材アドバイザーの林隆さんから、1本の木が木材になるまでのサイクルや木の特色の説明を受けた児童たち。実際に木材に触れたり、香りを感じたりしながら木の温かみや役割について理解を深めました。また、校舎1階の地域ラウンジの設計に携わった、町在住の建築士、高瀬舞さんからは、小中学校が多くの人の力によって建てられたことを伝えられました。児童から「木のことが知れて良かった」や「添田の木のが好きになった」などの感想が聞かれ、木の魅力に触れる貴重な時間となりました。

↓「学校や町を大好きになってほしい」と語る高瀬さんの話に真剣な表情で耳を傾ける児童たち



↓コーカサスオオカブトを引き当てた吉崎遥葵くん(樹田)は「狙っていました」と笑顔でピース



クワガタを手笑顔溢れる子どもたち KABUTO・KUWAGATAクジ引き大会

7月25日、道の駅歓遊舎ひこさんで第12回KABUTO・KUWAGATAクジ引き大会が開催されました。道の駅職員が育てたり採ってきたりしたカブトムシとクワガタ318匹の他、新鮮な野菜や特産品なども合わせ約520の景品が用意されたクジ引き大会は、10時の開会時には約150人が列をつくりにぎわいました。おなじみのヒラタクワガタやノコギリクワガタなど他、特賞などでヘラクレスオオカブトなども用意された催しは、その行列が切れることなく2時間もかからずに完売。北九州市に住む孫にプレゼントしようと参加し、2等と3等を引き当てた稲富さん(峰地)は「孫が喜んでくれれば」と笑顔で話していました。

↓草野美深町長(前列中央左)ら訪問団の皆さんと町長・副町長・教育長・町議会副議長



鉄道が結ぶ姉妹町の絆、いつまでも 美深町親善訪問団来町

6月23日と24日の2日間、姉妹町の北海道美深町から草野孝治町長や南和博議会議長ら10人の親善訪問団が添田町を訪れました。美深町を出発し飛行機を乗り継いで到着した訪問団は、初日の夜に町内の商工・農業関係者らと意見交換会を開催。お互いの町が抱える課題などを語り合いました。24日は雨の中、英彦山神宮への参拝や添田小中学校、めんべい添田町工場などを視察。小中学校の視察で、美深町では雪が多く降るため体育館の上部にある窓が、添田町では下部にあることに気づき、生活様式の違いに驚く場面もありました。離町式では、今後も鉄道がつないだ縁を大切に、長らく交流を続けていくことを誓い合いました。

地域と自衛隊をつなぐ架け橋に 自衛官募集相談員委嘱式

自衛官志願者へのサポートや自衛官募集に関する広報活動を行う自衛官募集相談員の委嘱状交付式が7月14日に行われ、加来勉さん(岩瀬)に寺西町長と自衛隊福岡地方協力本部北九州地区の泉地区隊長から委嘱状が渡されました。「これまでの経験を若い世代に伝えていただき、地域と自衛隊をつなぐ大切な役割を、引き続きお願いします」と寺西町長が話すと、8年目となる募集相談員を務める加来さんは「国民からの自衛隊の期待は高まっていますが、少子化の影響から自衛官の減少が続いています。自衛隊に関することは何でも相談してください」と力強く話していました。自衛隊に関する相談は加来さん(☎82-0048)まで。

↓固い握手を交わす(左から)寺西町長、加来募集相談員、泉功次北九州地区隊長



「生の舞台」を見て感性を磨き育てる 子育て支援センター観劇会

7月24日、地域子育て支援センター主催の観劇会がオークホールで開かれました。劇団風の子九州さんの乳幼児を対象とした演目「ピーかぶー」の観劇に地域子育て支援センターに通う親子や、くるみ保育園、みどり保育園の1、2、3歳児とひこぼたるの園児たち62人が訪れました。演劇を初めて見る幼児も多くいる中、始まる前は不安な表情を浮かべる子もいました。しかし温もりがあるわらべうたや踊り、動物に扮したお芝居やギターなどの弦楽器を使ったおだやかな演奏など、心温まる40分間の劇に目をキラキラさせながら見入る幼児や、終始にこにこ顔で楽しそうに見ている幼児など、思い思いに楽しい時間を過ごしました。

↓舞台は直径約36メートルの円を中心に、歌や踊り、お芝居などバラエティに富んだものでした



↓啓発活動を行った、添田町保護司会と添田町更生保護女性会の皆さん



立ち直りを支える地域の輪

第76回社会を明るくする運動月間

添田町保護司会(水上 普 会長)の皆さんが、社会を明るくする運動月間中の7月3日、道の駅歓遊舎ひこさんで啓発活動を行いました。犯罪や非行した人の立ち直りを支え、再び安心して暮らせる地域づくりを進めるボランティアの保護司。この日は福祉施設に物資支援などを行う町更生保護女性会(重松美津子会長)と一緒に、啓発グッズを配布し、保護司の活動や更生保護への理解を呼びかけました。水上会長は「非行や犯罪を犯した人の立ち直りには地域の理解が必要です。一人でも多くの人に保護司の活動を知ってもらいたいです」と話していました。保護司の皆さんは誰もが安心して暮らせる地域を目指し活動を続けています。